

平成 30 年度 第 1 回わくわく市民懇談会

- 1 日 時 平成 30 年 7 月 1 日(日) 午後 1 時 30 分から午後 2 時 20 分まで
- 2 場 所 長元坊区集会場
- 3 出席者 長元坊区民ほか 18 名
市長、随員職員 2 名
- 4 市長講話

皆さま、こんにちは。

大変暑い中、そして今回お声掛けをいただきましてありがとうございます。こうした形で、それぞれの区の皆さまとお話できる機会を非常に嬉しく思っています。短い時間ですが、有意義な時間になればと思います。今回は、事前に区長さんから質問や要望をいただいていますので、そういったことを折り込みながらお話できればと思います。

さて、ただ今、お手元に新庁舎のパンフレットを配布させていただきましたが、現在は前面北側の駐車場整備を行っています。旧庁舎は全て取り壊されて、真っ平らになり、これからは外構や舗装関係の工事が進められ、お盆明けくらいには、ほぼ完成すると聞いています。また、この新庁舎は、土日も開放していきまして、皆さまも自由に庁内へ入れますので、5階の展望ロビーなどご覧いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、皆さまからいただいた質問・要望では、「交通手段について」ということで、買い物などで不便されている、そして買い物などでの手立て、交通も含めて考えて欲しいということでした。それから、街中の商店街活動についてイベントなどがあっても交通手段の問題で足を運ぶのが難しいというお話や商店街活動に関する買い物の不便や交通の不便ということでご要望をいただいています。もう一つが国民健康保険税や年金等の引き上げなどについてはどうなのか、ということでしたので、後程、ご回答したいと思います。

最初に、買い物の不便、交通の不便についてですが、これは長元坊区の皆さんに限らず、交通手段をなかなか確保できないという問題で、中野市の外周部の豊田地域や北部方面、日野地区でも出ているお話です。これについては、人口が減少していることや高齢化に伴いまして、そういったニーズが出てきていると認識しています。市では、バス路線の見直しやバス事業者に対しての補助金により、路線の維持確保に努め

ているところですが、より利便性を高めるための方策もさらに必要になってくると思いますし、政府もこれから本腰を入れて「地方における公共交通網」に取り組んでいくと聞いています。公共交通は、これから運送法など法的な問題をクリアしていかなければいけないですし、いろいろと変えていかなければならないこともあって、時間はかかるかもしれませんが、今までいろんな意味合いで取り組んできた公共交通については、これから事業者さんも含めて改革の手が入ると思われまます。そして、地域における人口の偏在が著しくなっているため、各地域で共通の課題となってきましたが、中野市でもそういったところを見ながら、交通の在りようをより良いものにするために検討を重ねていきますので、よろしくお願ひします。

また、「買い物」についてですが、皆さまからのご意見やご要望などの実態も把握しながら研究、検討を重ねていきたいと思ひます。

さて、現在の中野市の人口は43,000人程度ですが、このところの推移では、特殊な年を除くと200~400人が毎年減少している状況です。現在、目標を設定して人口減少を押さえようとしていますが、日本全体の出生率が低いことや高齢化が進んでいることで、しばらくの間、自然動態は増えていかないと思われまますが、社会動態については、出ていく人、入ってくる人をみると若干出ていく人が多い状況です。これについては、「やりよう」によって中野市の人口が減少しないように出来ると考えています。社会動態をみますと、昨年の出でいった人は98人多かった状況です。年によりますが、だいたい100人、多くて200人といった状況で、ここに自然動態が加わって先ほど言った人数になります。

それでは、人口はいったいどうすれば増えるのだろうか、どうすれば人が入ってきてくれるのかということですが、現在、各自治体が、「私たちの街に住みませんか」といろいろな事業を展開しているわけですが、中野市もこれまで以上にそれらの展開を強くしていかなければなりません。一方で、ただ「中野市に来てくれ」といっても「働

く場所」が無ければ移住をして、人が来ることは出来ません。かくいう、私も40代後半くらいには、中野市へ帰って来ようかなと思っていたのですが、自分が暮らしていけるかということを見るとなかなか決断がつかないことがありました。やはり、職があつて暮らせるということが重要で、働く場所が大事になります。中野市の場合には、いろいろな事業、特に「農業分野」がありますので、就農される方も多く、重点的にこれからの維持確保、そして勧誘をしていかなければなりません。

一方で、街中の商店街も同じなのですが、この地域で事業を起こしたい人に向けて、「この地域で事業をやってみませんか。」というような勧誘方法があろうかと思っています。そうしたことも含めまして、市では「シティプロモーション」といいまして、中野市を売り込むという形で若手の皆さんに方針や活動について、いろいろな企画をしてもらい、行動をおこしてもらおうということで進めています。こういったことを繋げていくことで中野市に人が入ってくる、人が寄ってくるというような施策を今後とも行っていきたいと思います。

さて、市内総生産という概念がありまして、2005年から2014年までの数字があるんですけども、2005年の位置からV字で回復している状況にあります。世の中では、これだけ経済活動が活発になってきているということで、これは付加価値ベースなので儲かった分だけを積み上げているのが、総生産なのですが、これだけで1,287億円が中野市のなかで生み出されている生産額ということになります。全体の売上で見ますと、平成17年くらいの数字ですけど、須坂市よりも中野市が多かった状況にあります。産業の構成もしっかりしているのが中野市であります。特に農業分野に関しては、農業従事者が多くいらっしゃいまして、こういった農業従事者の方々が豊かになることで中野市の発展の伸びしろは、多くあるということです。こういった意味で、新規就農者をこれから多く増やしたいと思ひますし、ぶどうやりんごにしろ、農業に対する技術力の高さは他の地域から比べたら、品目、量、品質の高さ

はかなりあります。首都圏などの市場の人に聞くと、中野市はかなり有名です。それだけの力を持っていますので、さらにそれを外に売り出すことによって、外の人が希望を持ってこの地に来てもらうというようなストーリーができると思っています。今後ともそれらに力をいれて、取り組んでいきたいと思っています。

さて、中野市の財政に触れてみますと、市庁舎の建て替えなど行ったところですが、今後の財政も中身を管理していかないといけないと思っています。市の状況というのはよく3割自治と言われますが、中野市の市税収入が62億円程度で、予算全体が210億円程度ですので、大体3分の1弱になります。収入は、それ以外に地方交付税、起債があり、それぞれ3分の1となっています。また、45,000人規模の自治体は、標準的な市であろうかと思っていますし、これからどう盛り上げていくかが大変重要なことだろうと考えています。経済基盤としては、いかようにも外に売り出せる種は多くある、というのが中野市だと思っています。

商材にこと欠かないというのが中野市でありまして、先ほどシティプロモーションについて少し触れましたが、この言葉には二つの意味があります。もう一つが、市民の皆さまに自分の街に愛着を持ってもらうための情報の提供や発信をしなければならないということです。いくら外に向かって情報提供をしても、一丸となった力では現れにくいということで、シティプロモーション事業はこれからも継続していきますので、よろしくお願いいたします。

さて、国民健康保険税について、お話したいと思いますが、このたび国民健康保険が県の一括管理になりました。これを受けて市の管理から県に移るということですが、市では保険料を抑えるということで、過去9年間ほど一般財源から拠出してきたんですけども、この拠出をなくして県にお預けしていくということになりました。しかし、蓋を空けてみますと、地域や自治体によって料率が違うということが出てきたわけですが、これから県がどのように平準化を図っていくのかは見ていきたいと思っています。

また、その状況によっては柔軟に対応していきたいと思います。後期高齢は全県一律でして、このように進めていって欲しいということは伝えてあります。医療については、極力、公平性を追求してほしいと思っていますし、皆様にも関心を持ってみてもらいたいと思います。

このほか、街中について考えていることとお話させてもらえればと思います。信州中野駅前にホテルを建てようということをずっと考えていました。市として何が出来るか分からなかったのですが、外から来た人に聞くと「中野市には泊まる場所が無い」という声が多く、そのうちの多くがビジネス関係でした。例えば、高丘工業団地に商談で来た人は、山ノ内町に泊まるのではなく、長野市内のホテルに泊まり、翌日また中野市に来るそうです。そういうような人が中野市には多い状況にあり、農業や工業、量販店の皆さんに多いようです。そして、量販店の方に「なぜ中野市にホームセンターなどの店舗が多いのか」を聞いてみたところ、中野市は農業の最先端地だそうで、中野市で売れるものは全国で売れるそうです。こうしたことから、中野市は「パイロット店舗」という位置づけにあるそうで、中野で売れないものは外では売らないということをやっていると聞きました。また、もう一つとして、中野市は商圈が広いことです。商圈調査は、長野県がやっているのですが、東は群馬県草津町まで入ります。今は、白根山の噴火で道が閉鎖になってしまっているのですが、大きなダメージとなっていますね。そして、北は上越市まで入ります。ちなみに上越市長はこのあたりの新聞を全部読んでいるそうです。昔から中野市は、交通の要衝だったと言えるのです。商業活性化には、郊外に大型店舗が出来たことによって、市街地の街中に影響がでてしまったのですが、皆さんがどうすれば人はやって来るのかなと真剣に考えていかなければいけません。市の営業推進課には「暖簾だけ下げてもお客さんは誰も寄ってこないよ。呼び込みにいかなければ。」といつも言っています。これからは、どんどん商売をやっていただける若い人を呼び込みたいと思っています。よく言われるのが、若

い女性が入ってこないと言われます。若い女性が街に入ってくると、若い男性が心配して連れてやってくる、そうすると親御さんも心配してやってくるというストーリーがあります。そういう感覚の街づくりをこれからしていかなければなりません。

また、北信総合病院が基幹病院となったことで、研修医の先生などの出入りが激しいのですが、泊まる場所がない状況で、深夜の勤務もありますから近くに宿泊場所があればありがたいということを知りました。ちなみに、松本市に信州大学の大学病院がありまして周りにはホテルはないのですが、旅館はたくさんあるのです。こういうのは、最近の傾向で「ホスピタルイン」というような機能をもったバリアフリールームを作るケースなどが増えてきています。そういったことにも、ホテルは多様な位置づけが出来ると考えていました。民間対民間ですから、市としては「中野市に来てくれば何か出来ます。」というようなことしか言えませんので、あとは事業者の判断となります。「中野はこんな土地柄です。」というようなプロモーションをやってきました、今回の形になりました。こういった手法で、中野市の持っているポテンシャルを生かして、どんどんいろんな企業群、いろんな業種がどんどん中野市に入って来てもらいたいと思っていますので、そのための施策をどうするかということを考えなければなりません。

あとは、農業分野も今後より高齢化していくことが考えられますが、AIなどのコンピューターを利用して、機械化をしていくことも必要になります。例えば、ドローンを使って水を与えるなどといったことをどんどんこの地に入れていければ、それがまた農業の魅力に繋がるかなと思っています。時代の変化を取り入れながら、農業従事者の皆さまにも変わってほしいなと思いながら、政策を進めています。ここまで雑ぱくにお話をさせていただきましたが、公共交通については私の使命だと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

《質疑応答・要望①》

街中から郊外の方へお店が移動しており、北信総合病院に通院した帰りなど買い物が出来なくて不便を感じています。

(市長)

病院もそうですが、人が集まる場所への手立ては市として必要だと考えていますし、街中の人もバスに乗って郊外のお店に買い物に行っているということも聞いています。お店の出店に関しては、事業者がそこに商機があると考えた結果ですので、市としては、そういった環境づくりをこれからもしていきたいと思っています。